

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 4 配水池	浄水場でしっかりとよごれを落としてきれいになった水は、配水池という場所にためられます。そこから、たくさんの水道管を通過して、みんなの家の蛇口まで水が運ばれていきます。
問2	答え 3 人口の数にかかわらず、一人ひとりが日頃から節水を心がける	水は限りある資源であるため、人口が多いか少ないかに関係なく、一人ひとりが効率的に使う努力が必要です。生活の中での節水や、水を汚さない工夫をみんなで進めることで、未来へ向けて安定して水を使うことができるようになります。
問3	答え 1 お弁当の食べ残しを肥料にして畑にまく	生ごみを肥料にして土に還すのは、形を変えて新しく利用するリサイクルの一種です。服をそのまま譲ったり、物を修理して使い続けたりするのは、原料に戻さないため「リユース」にあたります。
問4	答え 2 それぞれの発電方法で環境への影響やエネルギーの使いやすさが違うから	火力発電や原子力発電、自然の力を利用する発電には、それぞれメリットとデメリットがあります。例えば、資源がなくなる心配や地球環境への影響などが異なるため、目的にあわせて組み合わせたり使い分けたりすることが大切です。
問5	答え 4 ごみを資源として再利用し、捨てるごみを減らせるから	資源となるごみを正しく分別すると、それらを再び新しい製品の材料（資源）にすることができます。これにより、ごみとして燃やされたり埋め立てられたりする量を減らすことができるため、環境を守るための重要な活動となります。
問6	答え 4 節水の工夫などにより、水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがある	人口が増えると水の使用量も自動的に増えると思われがちですが、実際にはそうとは限りません。人々が毎日の生活の中で節水を心がけたり、工場などで水を再利用したりする工夫が進んでいるため、人口が増えても全体としての水の使用量は減ったり、横ばいになったりすることがあります。資源である水を大切にできる社会的意識が高まっている証拠です。
問7	答え 3 ごみを正しく分別するため	リサイクルマークは、その製品が何からできているかを示しています。マークを確認して素材ごとに正しく分けることで、ごみを資源として再利用（リサイクル）しやすくなります。
問8	答え 4 有害な物質を取り除いて、空気をきれいにする	ごみをそのまま放置すると不衛生になり、病気の原因になることもあります。清掃工場では、衛生的で安全にごみを処理するために、有害な物質をしっかりと取り除いてから煙を出すなど、地域の環境を守る工夫をしています。
問9	答え 2 トイレットペーパー	新聞や雑誌などの古紙は、回収された後に工場で溶かされ、再び紙製品としてリサイクルされます。その代表的な例が、私たちが毎日使うトイレットペーパーです。このように資源を循環させることは、ごみを減らすためにとても大切なことです。
問10	答え 1 4R（フォーアール）	環境を守るために資源を大切にできる取り組みとして、ごみを減らすための3つの言葉（リデュース、リユース、リサイクル）に、いらぬものをもらわない・断るという意味の「リフューズ」を加えたものを4R（フォーアール）と呼びます。
問11	答え 1 電気を作ったり、温水プールを温めたりする	清掃工場でごみを燃やすときに出る熱（余熱）は、発電をして工場や地域の電気として使われたり、温水プールや近くの施設にお湯を送って温めたりするのに利用されています。
問12	答え 4 変電所	発電所では電気をつくりませんが、つくられた電気はそのままでは強すぎるため、変電所という場所で私たちが使いやすい電圧に下げた後、家庭や工場へ送られています。
問13	答え 2 リフューズ	リフューズとは、ごみになるものを最初から受け取らない、つまり「断る」ことを指します。レジ袋などを断ることは、ごみを増やさないための大切な行動です。
問14	答え 2 送電線	発電所からつくられた電気は、長い電線である送電線を通して、街の変電所まで運ばれます。このネットワークがあるおかげで、私たちは離れた場所でもつくられた電気を使うことができます。
問15	答え 4 プラマーク	豆腐の容器のようなプラスチック製の容器包装には「プラマーク」が表示されています。素材ごとに決められたマークを確認することで、適切にリサイクルに回すことができます。
問16	答え 3 ごみの量を減らし、資源を無駄にしない	物を大切にすることで繰り返し使うことで、本来ごみになるはずだったものを減らすことができます。これにより、新しい物を作るために使う資源の消費を抑え、限りある資源を効率よく使うことにつながります。